

## めぐる（岐阜県）

皆さん、こんにちは。私たちは岐阜県瑞穂市からまいりました、朝日大学防犯ボランティア団体「めぐる」の加田(かだ)と申します。同じく井上(いのうえ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



### 団体の結成経緯

以前から、朝日大学法学部では刑事法のゼミを中心に盗犯マップづくりや、徒歩による防犯パトロールなどの防犯活動が展開されていました。そのような中、2010年、警察庁の「若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業」によって、私たちは岐阜県の学生ボランティアの代表として指定を受けることになりました。それに伴い、団体名を「めぐる」と名付けました。団体名「めぐる」には「『安全・安心して暮らせる街にしたい』という熱い思いを巡らせ、地域を駆け巡り、やがてその思いと活動が世代を超えて後世に巡ってほしい」という、メンバー全員の願いが込められています。



これは、私たちがつくったユニフォームです。背中にあしらった鷲のデザインは、「厳しい監視をすることができる」ことを意味しています。

私たちの活動を図にするとこのようになります。

「めぐる」の結成をきっかけに、行政や地域との連携を図りながらの活動が多くなり、学生だけで活動してきた頃に比べ、活動の幅が一層広くなりました。

活動の幅が広がったことにより、私たちは様々な活動に取り組むようになりました。

現在、私たちに取り組んでいる活動がこちらになります。では、簡単に1つずつこれらの活動を紹介していきます。

### ユニホームの作成

鷲は「遠くを見渡すことができ、厳しい監視ができる」



**活動内容**

**「めぐる」の活動**

<p><b>これまでの活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●盗犯マップ</li> <li>●散歩レンジャー</li> </ul>	<p><b>新たな活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●防犯教室</li> <li>●危険調査アンケート</li> <li>●青パト</li> <li>●フライヤーの配布</li> <li>●万引き防止啓発DVD</li> </ul>
--	---

私たちの今までの活動をまとめると5つに大別できます。1つ目は地域の見回りです。これは2種類あり、まず私たち学生の徒歩によるパトロール、通称「散歩レンジャー」です。主に環境美化と危険箇所点検を目的とし、大学周辺を自分たちの足で歩きます。路上のゴミを拾いながら、電柱に許可なく貼られたビラや壁などへの落書き、不審者が出没しそうな周囲からの死角などが無いかを調査しています。このような小さな努力の積み重ねが地域の安全・安心に繋がるものと信じています。また、防犯パトロールをしていると地域の方々に声を掛けられることもあり、その言葉は私たちの活動の原動力となっています。このような地域の方々とのコミュニケーションによって防犯の輪が広がっていくことを改めて感じました。

**青色防犯パトロール**



**不審者に注意してください！**

**振り込め詐欺に注意してください！**

**青色防犯パトロール車による周辺巡回、及びアナウンスによる住人への注意勧告**

そして、もう1つが青色防犯パトロール、通称「青パト」です。週に1回、瑞穂市役所の方と一緒に青パトに乗り、小学生の下校時間帯に合わせ、市内の小学校全7校の通学路を中心にパトロールを行っています。パトロー

ル中は、子どもの連れ去り防止や振り込め詐欺の被害防止などのアナウンスも併せて行い、地域の方々の防犯意識の向上を図っています。

2つ目は防犯教室です。これは、園児や児童が犯罪に巻き込まれないよう、様々な手法を用い、防犯について学習指導を行うものです。内容としては、実際に体験する形のものとして、「不審者に捕まらないための20mダッシュ訓練」、「騒音測定器を使用した大声出し訓練」、子どもたちに考えてもらうものとして、「不審者について考えるクイズ」、「不審者との遭遇をテーマにした紙芝居」などがあります。これらについては、決して最初から上手くできた訳ではありませんでした。不審者について考えるクイズでは、当初は「めぐる」のメンバーがモデルとなり、サングラスをかけたり、赤いアフロヘアのカツラを被るなどして児童の前に登場したのですが、あまりに奇抜な格好だったせいか、児童の注目を集めすぎてしまい、結果として、落ち着いて学習させることができませんでした。その後は、イラストに置き換えて説明するようになり、児童らに集中して取り組んでもらえるようになりました。

**防犯教室**




- 20mダッシュ
- 大声出し訓練

**不審者クイズ**

**工夫点 集中してもらうためイラストに！**

**工夫点 共感するために児童を題材！**

- 不審者対策の紙芝居




また、紙芝居においても、当初は、親しみを込め、登場キャラクターを動物にしていたのですが、現実味を帯びていなかったらしく、児童たちの反応がイマイチでした。現在は、リアルに危機感を感じてもらえるよう、登場キャラクターを小学生にしています。

このように、開催の都度、反省をもとに改善を重ね、より児童に分かり易く、飽きないような指導ができるよう努力しています。

なお、活動に適したものを既製品で探すことは難しいため、紙芝居や説明に用いるパネルは、私たちが材料から準備し、全て手づくりで製作しています。

このほかにも警察と連携した活動で、マクドナルド防犯教室を行ったことがあります。

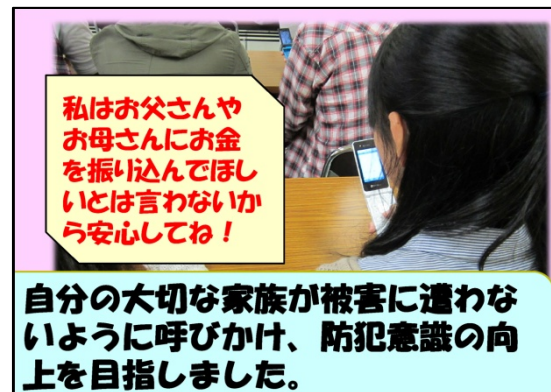
当日は、司会進行や不審者役で参加させてもらいました。児童らの心を一瞬で掴むドナルドの話術に感銘を受け、私たち自身もこの防犯教室で学ばせてもらいました。

防犯教室では、児童らに自身の身を守ることの大切さを理解させることを第一に心掛けています。最近では、防犯教室の開催後に児童からお礼の手紙をいただくようになりました。2年生の女の子からは「紙芝居やクイズで、不審者がなぜ危険なのかわかりました。」、5年生の男子からは「20m 不審者から逃げ切れれば、もう不審者はついてこないということを教えてくれてありがとう。もし不審者に会った場合は実践したいと思います。」という手紙をいただきました。このような温かい言葉を受けると、一生懸命練習して本当に良かったと実感できます。



3つ目は防犯啓発活動です。主なものを説明させていただきます。

まず、大学の新生とその家族を対象とした振り込め詐欺被害防止活動を行いました。振り込め詐欺の被害に遭った方の大半は、振り込め詐欺の存在を知っていた方です。振り込め詐欺被害を防止するためには、より一層防犯意識を向上させる対策が必要となります。そこで、私たちは、「家族にメールを送ろう大作戦！！」と称する振り込め詐欺被害防止対策を講じることにしたのです。



普段、面と向かっては言いづらいことも、メールというコミュニケーション手段を用いれば意外と抵抗なく伝えることができます。実際に、このような文章で家族に呼びかけてもらいました。この呼びかけにより、被害防止意識を向上させただけでなく、改めて家族の絆を深めることができました。

次に、毎月の活動として、市民の防犯意識を高めるため、市内にあるショッピングモール、駅、銀行などで広報啓発のチラシを配布する活動を行っています。自治体や警察署だけでなく、地元の防犯ボランティア、また、高校生らで構成された MS リーダーズなどとも連携を図るなど、防犯活動だけでなく幅広い年齢層の方々との交流も大切にしています。実際に配布したものがこちらになります。このデザインは、私たち学生が画像処理ソフトなどを使って作ったものです。製作に当たっては、いかに分かり易く伝えるかという点にこだわり、皆で意見を出し合い、ビジュアルやキャッチコピーを考えています。

そのほかにも、駅駐輪場等に赴き、自転車の防犯登録と二重ロックの点検を行っています。この活動については新聞に掲載されました。また、最近では岐阜県警察本部生活安全総務課や自動車盗難等防止協会、岐阜県防犯協会とともに、車上ねらいや空き巣の注意を呼びかける啓発活動を行いました。こちらが活動の際に配布したものです。ここでは新聞だけでなく NHK などテレビでも取り上げられました。このように周りの団体との連携や学生自らの独自性を持ち合わせることで、地域のメディアなどに注目され、地域の方々からの認知度も高くなりました。



4つ目は、万引き防止啓発 DVD の作成です。万引きの実情を全国に伝えるために、岐阜県警察本部と岐阜放送と協力して撮影しました。これは地元のテレビ番組で放送され、現在は全国の警察を通しレンタルも可能となっており、反響も大変大きいと伺っています。それがこちらになります。

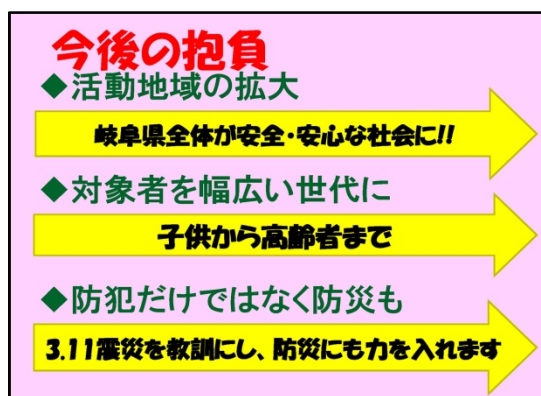


5つ目は危険体験アンケート調査です。これは、「めぐる」の企画から始まったものであり、市の教育委員会を通じて小学校に協力を要請しました。このアンケートは、瑞穂市内にある小学校全7校の1年生から6年生を対象に行いました。対象児童は 3,152 人です。

アンケートを実施した目的は、児童が遭遇した犯罪や危険と感じたことなど、子ども目線のまわりの実情を知るほか、アンケートを通して改めて児童に防犯意識を高めてもらいたかったからです。アンケートは 16 項目で構成されており、質問としては、「危険な体験をしたことがあるか否か」、あるとすれば、「いつ、どこで、だれが、どのような人に、何をされたか」など、具体的に把握できる形式になっています。ほかにも、「防犯ブザーなどの防犯グッズを持っているか」、「通学路に子ども 110 番の家があることを知っているか」といった内容で、児童がどの程度の防犯意識を持っているのかを知ることができます。

分析の際は、集計したデータを読み取りやすくグラフ化していき、そこから分かる事実や問題を議論していきました。今後は、カテゴリーごとに対策を考え、またアンケート結果から浮上した問題点を踏まえ、防犯教室の内容を改善・充実していくほか、行政や民間企業などとの連携による新たな施策を展開していきたいと考えています。

現在の「めぐる」の活動範囲は大学が所在する瑞穂市のみですが、今後は他の地域にも活動範囲を広げ、まずは岐阜県全体が安全で安心な社会になることを目指します。また、私たちの活動対象はこれまで児童が中心でしたが、今後は高齢者までも対象とし、幅広い世代に対して普及啓発をしていきたいと考えています。



今後は、東日本大震災を踏まえて、防犯だけでなく防災に対しても研鑽を積み、活動の幅をさらに広

げていければと思っています。

## 新たな活動予定

現在、瑞穂市では地域活性化の動きとして、自治体と朝日大学の連携の動きが活発になされています。その構想の1つが、民間ふれあい交番構想です。これは、「めぐる」のメンバーを中心とし、地域のほかのボランティア団体と情報交換をしたり、あるいは交番や消防署の協力を得ながら、防犯や防災に関する知識を住民とともに学ぶことのできるステーションをイメージして準備しています。ここでは、単に活動を実践するだけでなく、地域高齢者や子どもたちの憩いの場を提供することにより、自然な形で防犯・防災の啓発活動を展開できればと願っています。これからも今まで以上に、協力、応援して下さる方々に対し、感謝する気持ちを忘れずに活動していきたいと思えます。

## 質疑応答

●質問 私は蟹江町役場で防犯担当をしております。民間ふれあい交番構想についてお聞きしたいのですがよろしいですか。実は、蟹江町でも防犯ステーションというものを駅前につくりたいと思って、いま案を考えています。この施設というのは既存の交番さんを利用した施設なのか、瑞穂市さんが施設を準備してやられるのか、大学側で施設を用意してやられるのか、もう決まっているのですか。

○回答 詳しいところまでは聞いておりませんが、市のほうで準備をすすめていただいているという話をいただいております。(※後日確認したところ、大学側が準備をすすめているとのことでした。)

●質問 大学との連携ということで、隊員さんというのは皆、瑞穂市に住んでいる方なんですか。

○回答 いえ、違います。

●質問 そうすると、卒業されて地元でまた防犯活動をするというような、そういう話し合いとか、「私、ここで立ち上げるわ。」というのを聞かれたことはありますか。今のところはないですか。

○回答 残念ながら今のところは聞いておりません。「まだ社会人になったばかりで、ボランティア活動をする余裕がない。」というのが本音であると思えます。もう少し経てば、先輩方からの良い知らせがあると思えます。

●質問 平成 22 年に立ち上げられて、多分、今一番盛り上がっている時期だと思います。4年制大学でこれからこの活動を次世代の学生さんに引き継いでいかれると思いますが、それはどういうふうな方策を考えていらっしゃるのか。というのは、地域の防犯というか、いろいろな活動も、立ち上げたときのメンバーがいなくなると、あとの活性化が難しいものですから、若い皆さんがどういうふうを考えられているのか、ちょっと聞かせてください。

○回答 「めぐる」でのメンバー集めは、年間を通してのものとしては、ポスターでの呼びかけや、4月の新学期の時期には1年生に対してパワーポイントを活用して活動内容を説明し勧誘をしています。次世代への引継ぎに関しては、一緒に活動していくうちに、活動内容についてどういったことを伝えればいいのかというのを学んでもらっています。現在進行形で、会場後方にメンバーがいますが、彼女たちがきちんと学んでくれていることを願っています。

●質問 大学生中心としてやっているということで、私も管内の大学で防犯活動を試みませんかとお

願っているのですが、他の大学で似たような活動をしているところとの交流あるいは情報交換会などはやっているのでしょうか。

○回答 昨年、岐阜県警察主催のヤングボランティアフォーラムに参加し、そこで他大学の方々と連絡先を交換しましたが、今のところ、一緒に活動するまでには至っておりません。もちろん今後機会があれば実現させたいと考えています。